

男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 便り

2020 年度 JES We Can 支部活動の報告

◎：支部代表、○：報告者、(新)：新委員
支部代表以下は五十音順

[北海道支部 第 20 回北海道支部学術集会]

開催日：2020 年 11 月 8 日(日)

会 場：Web 開催

会 長：櫻井晃洋(札幌医科大学医学部 遺伝医学)

企 画：JES We Can 北海道支部賞受賞講演

受賞者 三次有奈(市立札幌病院 糖尿病・内分泌内科)

大森一乃(北海道大学大学院医学院 免疫・代謝内科学教室)

2018 年より、北海道の内分泌領域における学問と医療の発展に寄与された女性医師を、学術論文をもとに表彰する JES We Can 北海道支部賞を設けており、今年度は選考の上、2 名の先生方が受賞されました。2 名の先生方には、第 20 回日本内分泌学会北海道支部学術集会で受賞講演をしていただきました。積極的に国際学会発表を行い、国際学術雑誌への論文掲載で優れた評価を得ながら、知識と経験を生かし活躍されている姿は、若手女性医師の良い目標になったのではと思います。本企画をプログラムに組み入れて下さった会長の櫻井晃洋先生に深謝申し上げます。

委員氏名：◎○宮 愛香、(新)竹田安孝、中村明枝

[東北支部 第 40 回東北支部学術集会]

第 40 回東北支部学術集会は 2020 年 4 月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により、延期となりました。そのため、予定されていた JES We Can 企画の講演も本年度は開催できませんでした。近いうちに、学会活動が再開できることを祈念しております。

委員氏名：◎○桜井華奈子、木下敬子、高橋郁子、羽田幸里香、緑川早苗

[関東甲信越支部 第 21 回関東甲信越支部学術集会]

開催日：2021 年 10 月 5-30 日(Web 開催)

会 長：田村哲郎先生(新潟県立中央病院 脳神経外科)

企画名：「JES We Can 企画」シンポジウム(Web のため、ディスカッション・座長無し)

1 膵β細胞脱分化の研究

演者：石田恵美(群馬大学医学部附属病院 内分泌糖尿病内科)

2 日本内分泌外科学会における女性外科医の現状

演者：堀内喜代美(東京女子医科大学 乳腺・内分泌外科)

3 診療から研究へ、社会活動へ

演者：鈴木(堀田)眞理(政策研究大学院大学、跡見学園女子大学 心理学部)

企画名：JES We Can 関東甲信越支部優秀演題賞 選考

最優秀演題賞 受賞者

1 嶋山文華(東邦大学医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野)

日本人 NAFLD の網羅的解析による新規の肝インスリン感受性規定因子、除脂肪肝臓体積の同定

優秀演題賞 受賞者

2 吉本芽生(千葉大学大学院医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学)

治療に難渋した嗅神経芽細胞腫による異所性 ACTH 症候群の一例

3 渡邊涼香(千葉大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科)

ステロイド補充に反応した多臓器病変を有する IgG4 関連漏斗 下垂体炎の一例

4 川崎麻紀(国立成育医療研究センター 政策科学研究部)

妊娠糖尿病診断時の指標による産後糖尿病発症のハイリスク群の同定

第21回 関東甲信越支部学術集会における JES We Can 活動としましては、「JES We Can 企画シンポジウム」開催と「JES We Can 関東甲信越支部優秀演題賞」選考の2つが挙げられます。まずは、これらの遂行のために多大なご支援を賜りました田村哲郎大会長に厚く御礼申し上げます。この度は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となり質疑応答等が行えなかった一方、じっくり繰り返し拝聴できるメリットもありました。

「JES We Can 企画シンポジウム」では、内分泌学に携わる女性医師・研究者の様々なお立場・ご年代を代表し、以下の御三方にご講演を頂きました。まずは若手かつ基礎研究にも携わるお立場から、群馬大学 石田恵美先生にご自身が取り組まれている「膵β細胞脱分化の研究」について、有意義で刺激になるお話を頂きました。次いで中堅かつ内分泌外科医のお立場から、東京女子医科大学 堀内喜代美先生に「日本内分泌外科学会における女性外科医の現状」として、ご自身の内分泌外科医としてのご経験と内分泌外科学会における女性医師支援の立ち上げについて豊富な写真と共に、貴重なお話を頂きました。最後に、ベテランかつ内分泌内科医のお立場から、内分泌学会理事・前 JES We Can 委員長の鈴木(堀田)眞理先生から「診療から研究へ、社会活動へ」としてご自身の摂食障害の患者さんとの出会い、そこからテーマを得た海外での基礎研究、そして摂食障害の治療施設の立ち上げ等の社会活動までご発展させた足跡をご講演頂きました。どのご講演も素晴らしく聞き応えのあるもので、内分泌に携わる様々なお立場からの視点と年代を追ってご活動がより大きく広がって行くといった、ロールモデルのオムニバスを拝聴しているようでした。貴重なご講演を下さいました先生方にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

「JES We Can 関東甲信越支部優秀演題賞」は、昨年度から発足した賞ですので、規定からご紹介します。対象は、申請時に関東甲信越地区の施設に勤務あるいは在住している日本内分泌学会の女性会員、応募する年次支部学術集会時に40歳以下、抄録登録時に「優秀演題賞の選考対象に含まれることに同意」した方です。抄録の査読の評価点と Web 上でのプレゼンテーション内容をもとに選考委員が合議の上選考。同一申請者の授賞回数は1回を限度とし、会長賞等の他の授賞は妨げない」とされています。今年は11名の方が抄録登録時にエントリーされました。今回の選考委員は大会長の田村哲郎先生、次期大会長の龍野一郎先生、JES We Can から片井みゆき、岩部美紀先生、小澤直子先生の計5名にお務め頂きました。基本的に受賞者の目安は3名までですが、今回はクオリティの高い演題が多く2位は3名同点であったため、例外的に4名が受賞という形になりました。副賞は昨年に引き続き和光のイヤーズクロックで、裏側に受賞内容を刻印したプレート付きです。受賞の年を記念し、今後も内分泌医・研究者として益々輝く時間を刻んで頂きたいという願いが込められています。引き続き、来年以降もより多くの方々が JES We Can 賞へエントリーして下さることをお待ちしております。



委員氏名：◎○片井みゆき、(新)荒田尚子、井下尚子、岩部美紀、小澤直子、方波見卓行、北中幸子、鈴木眞理、田島敏広、田辺晶代、中島康代、波多野雅子、深見真紀、福田いずみ、藤田 恵、堀川玲子、山口実菜

〔北陸支部〕

2020 年度支部学術集会は延期となり、そのため 2014 年より毎年実施していた「JES We Can Hokuriku 企画セッション～一般臨床医のための～内分泌症例セミナー」ならびに事前審査会も残念ながら実施できませんでした。

現在北陸支部は役員、規約改訂作業をすすめています。2021 年度からはやっと JES We Can 北陸支部代表が支部役員に入る体制となります。支部代表も竹下有美枝先生に変わり、新委員も加わるなど新しい体制で様々な活動を再開します。男女共同参画を通し支部会員一人一人が内分泌・代謝領域の学問と医療の向上に尽力し、北陸そして全国に向けて貢献されることでしょう。これからもご支援をお願いします。

委員氏名：◎○臼田里香(2020 年度退任)、竹下有美枝(2021 年度支部代表予定)、中川 淳、
(新)藤井寿美枝(2021 年度新任予定)、朴木久恵

〔東海支部 第 20 回東海支部学術集会〕

開催日：2020 年 10 月 24 日(土)

会 場：じゅうろくプラザ(岐阜市)

会 長：森田浩之(岐阜大学大学院医学系研究科 総合病態内科)

企 画：JES We Can Tokai 企画セッション(日本内分泌学会専門医資格更新単位付与指定講演)
「FGF-Klotho 内分泌系から見た慢性腎臓病の病態生理」

演 者：黒尾 誠(自治医科大学分子病態治療研究センター抗加齢医学研究部)

座 長：中嶋祥子(市立四日市病院 糖尿病・内分泌内科)

本支部では、委員どうしの情報交換を密にしながら、年 1 回の支部学術集会に「JES We Can Tokai 企画セッション」を開催してきました。

2011 年の第 1 回より“女性会員が聞きたいテーマ”で“お招きしたい講師”に講演をお願いしてきました。記念すべき第 10 回の今回は、“カルシウム・リン代謝についてもっと勉強したい”という声に応え、自治医科大学分子病態治療研究センターの黒尾誠先生に FGF-Klotho 内分泌系の教育講演をお願いしました。FGF23- α Klotho 内分泌系と尿細管細胞障害のメカニズム、さらには FGF21- β Klotho 内分泌系とストレス応答に関連した血圧変動メカニズムと、新知見に感動するばかりでした。日頃、多くの患者さんと接する CKD ですが、その分子病態の深さに触れた気分でした。新型コロナウイルス感染症に配慮して、残念ながらビデオ講演の形式でしたが、参加者のアンケートでは、満足したとの回答ばかりでした。“女性会員が聞きたいテーマ”とは、即ち“全会員が聞きたいテーマ”であり、参加者の増加から支部活動の活性化につながると確信した次第です。企画の段階から御助言を賜り、また指定講演申請の御尽力をいただいた森田浩之会長ならびに有馬寛支部長に心より御礼申し上げます。

委員氏名：◎脇 昌子、赤羽貴美子、井上直子、東村博子、中嶋祥子、村上雅子、(新)山下美保、
○山本眞由美、山守越子、(協力委員：(新)小杉理恵子)



[近畿支部 第21回近畿支部学術集会]

開催日：2020年11月7日(土)

会場：大阪大学中之島センター(LIVE配信とオンデマンド配信併用WEB開催)

会長：池上博司先生(近畿大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科)

企画：JES We Can 企画講演「臨床と研究をつなぐ内分泌疾患」

演者：榎田紀子先生(東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科)

座長：新谷光世(大阪府済生会中津病院 糖尿病内分泌内科)

高橋路子(神戸大学医学部附属病院 栄養管理部/糖尿病・内分泌内科)

コロナ禍中、近畿支部学術集会としては初のWEB開催となりました。配信会場では万全な感染予防対策の中、東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 榎田紀子先生にご講演いただきました。榎田先生は2002年に日本内分泌学会若手研究奨励賞、2013年に研究奨励賞を受賞されており、稀な内分泌疾患からGタンパク質共役受容体(G protein-coupled receptor:GPCR)の変異と制御機構の解明に関するご研究をはじめ、まさに内分泌疾患解明の醍醐味であるBedside-to-Bench, Bench-to-Bedside双方向の研究・医療の成果についてclear-cutにご講演いただきました。多くの先生方にご参加いただき素晴らしい企画となりました。会長の池上博司先生、関係各位に深謝申し上げます。

委員氏名：◎加藤純子、浅原哲子、位田 忍、井上真由美、新谷光世、○高橋路子、藤本美香、三浦晶子、道上敏美

[中国支部 第21回中国支部学術集会]

開催日：2020年9月5日(土)

会場：WEB開催

会長：中村康彦(山口県立総合医療センター)

企画：JES We Can・第21回中国支部学術集会共同企画 パネルディスカッション

「母児の健やかな未来のために～内分泌疾患を有する女性に望ましい周産期医療を」

佐世正勝(山口県立総合医療センター、総合周産期母子医療センター長)

「耐糖能異常のある妊婦の現状と対応 ―妊娠時の特殊性―」

荒田尚子(国立成育医療研究センター、周産期・母性診療センター、母性内科診療部長)

「妊娠とパセドウ病 ～母児ともにケアするために～」

河井昌彦(京都大学医学部附属病院、総合周産期母子医療センター長、病院教授)

「内分泌疾患合併症妊婦に対する治療薬 ～その処方 大丈夫ですか?～」

座長：竹田孔明(山口大学大学院医学系研究科 病態制御内科学)

前川 亮(山口大学大学院医学系研究科 産科婦人科学)

内分泌疾患を有する女性の治療をする際に人生のイベントである妊娠・分娩計画を支えることも医師の役割の一つです。今回のパネルディスカッションは、周産期医療に造詣の深い日本を代表する3名の先生方にご講演頂きました。佐世正勝先生には、耐糖能異常のある妊婦の実際の対応を、荒田尚子先生には、パセドウ病合併妊娠の方の経過観察のポイントを、河井昌彦先生には、内分泌疾患を合併する妊婦への処方の注意点をご講演頂きました。

オンライン開催となりましたが、ご自宅や職場などから気軽に参加できる環境で、多くの先生方に演者の先生方のメッセージがお届けできたと感じております。プログラム立ち上げから、当日のWEBのご準備まで、大会長 中村康彦先生には多大なご協力を頂き、この場をお借りし深謝いたします。

委員氏名：◎◎三好智子、(新)折出亜希、鞆嶋有紀、栗岡裕子

[四国支部 第20回四国支部学術集会]

開催日：2020年10月25日(日)14:00-14:50

会場：Web開催 LIVE配信

会長：戎井理先生(愛媛県立中央病院 糖尿病・内分泌内科)

企画：女性医師セミナー

With Corona の New Normal は子どもも大人も減塩で身を守り医療を守る

演者：日下美穂先生(日下医院)

座長：吉田守美子(徳島大学大学院 医歯薬学研究部 血液・内分泌代謝内科学)

四国支部学術集会は10日間のWeb開催でしたが、女性医師セミナーはLIVE形式にて配信を行いました。広島県呉市で開業されている、日下医院院長の日下美穂先生より、減塩についての講演をいただきました。日下先生は日本高血圧学会減塩委員会の委員、一般社団法人ソルコンクラブの代表として減塩活動に積極的に取り組み、その活動はテレビなどのメディアで紹介されたり、減塩レシピ本を出版したりと、多岐にわたる活動を10年以上行っておられます。講演では、クリニックでの減塩指導だけでなく、地域住民や行政を巻き込んだ町を挙げての減塩活動の紹介、減塩食を提供するレストランの拡充、減塩サミットなどのイベント開催など、バイタリティーあふれる活動を紹介いただきました。COVID-19の外出自粛の影響で、保存食やテイクアウト食の摂取機会が増加することによる食塩過剰への警鐘のお話もありました。減塩は今まで取り上げることが少なかったテーマですが、内分泌・代謝疾患の診療では重要であり、減塩指導の参考になりました。また、女性ならではの目線で、患者さんや子どもを含めた、市民にとって減塩しやすい社会環境作りへの活動の熱意に感銘を受けるとともに、女性活躍のお手本を教えていただいた思いでした。女性医師セミナーのWeb開催に御尽力いただきました、会長の戎井理先生ならびに支部長の松浦文三先生に心より御礼申し上げます。

委員氏名：◎井町仁美、○吉田守美子

[九州支部 第20回九州支部学術集会]

開催日：2020年9月18日(金)～10月4日(日)

会場：WEB開催

会長：小川佳宏教授(九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学)

企画：JES We Can 九州支部賞受賞者の講演

1) 伊藤文子先生(長崎大学病院 第一内科(内分泌代謝内科))

「Visceral and subcutaneous fat increased after treatment of Graves disease」

2) 畑山朋美先生(九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学)

「A diabetic patient in whom Hb Weesp was incidentally detected when her HbA1c level was measured」

2020年度の第5回JES We Can九州支部賞は、選考の上、上記2名の先生が受賞されました。第20回日本内分泌学会九州支部学術集会はWEB開催となり、残念ながら表彰式は行うことができませんでしたが、2名の先生に素晴らしい受賞講演をしていただきました。中里雅光先生および事務局の山口秀樹先生、また本年度学会の会長である小川佳宏先生にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

委員：◎○明比祐子、馬越真希、佐藤 薫、柴田洋孝、伊達 紫、花田礼子、増山律子、松田やよい、的場ゆか、三宅育代、山本幸代